

ことし、富士市は20歳を迎えます。この20年間、工業都市として順調に発展し、県東部の中核都市になりましたが、いろいろなできごとがありました。

公害問題、富士山麓の開発規制、各種公共施設の建設、新幹線富士駅の建設などはまだ記憶に新しいことです。

これらの市勢発展の歴史を振り返り、21世紀への出発の年として各種の20周年記念事業を計画しています。新時代を迎える都市として、「富士山をシンボルにみどりあふれる文化と産業のまち」をテーマにまちづくりを進めていきます。



新市発足20周年の今年は、「ふじ21世紀プラン」による新しい富士市の構築に向けてスタートする意義ある年であります。

これにはずみをつける新幹線富士駅の建設は、富士山に映ろう駅の実現に全力を尽くしてまいります。

本年も皆様の温かいご支援ご協力をお願い申し上げます。

昭和61年元旦

富士市長 渡辺彦太郎



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

本年は21世紀の都市づくりを目指す「ふじ21世紀プラン」がスタートする年であり、また本市が市制施行20周年を迎える記念すべき年でもあります。年頭に当たり、決意も新たに市勢の発展と市民の幸福を願い頑張っております。

今年もよろしくようお願い申し上げます。

昭和61年元旦

富士市議会議長 植田祥之



昭和41年11月1日、吉原市、富士市、鷹岡町が合併して、新生富士市が誕生しました。当時の人口は約16万5,000人でした。



はた



日本の大動脈となる東名高速道路が部分開通しました。

富士、静岡間が昭和43年4月、次いで御殿場までが昭和44年3月に開通し、高速道路時代の幕あけとなりました。